ご　挨　拶

第８回亜熱帯森林・林業研究会を開催するにあたり、ご挨拶申し上げます。

本日は旧盆中にもかかわらず、会員の皆様、亜熱帯森林・林業研究会に関心をお持ちの皆さんをはじめ、多数の方々のご参加をいただきありがとうございます。

昨年は、国連の定める国際森林年であり、国内では「森を歩く」がテーマに掲げられ、現在の森林の状況を知り、豊かな森林を未来に引き継ぎ、木を暮らしの中で利活用することが再認識されました。

また、1992年の「屋久島」、「白神山地」、2005年の「知床」に続いて、琉球列島とほぼ同様な緯度にあり、貴重な生物が多くみられる「小笠原諸島」が日本で４番目の自然遺産に登録されました。

やんばる地域を含む琉球諸島は希少種や多くの固有種がみられることから、自然遺産登録推薦を目指す取り組みが進められつつあります。従来、やんばる地域は豊かな森林地域で、水源涵養、山地災害の防止等、多面的な機能を維持しつつ樹木を伐採し、木材やキノコ類の培地材料、薪炭材の供給を行ってきました。

一方、平成22年度の県内の住宅着工数は昨年とほぼ同数でありますが、木造住宅の着工数は319戸と平成21年の291戸を上回り、今後も増加の傾向にあります。従来の主流であったRC構造の住宅より木造住宅の方が沖縄県の気候風土に適しているとの県民の判断です。木造住宅の主体は軸組工法でスギ材を豊富に使用し、柱や梁の継手、仕口を機械で加工し現場で組み上げるプレカット法ですが、これらの木造住宅には沖縄産の建築製品は利用されていません。沖縄産の壁材、フローリング等の製品を製造し供給できる製造業者が育成されることで、県産材の利用が進むと期待されます。

森林の持つ多面的機能の発揮、生物多様性の健全な維持、林産物の供給および利用等を念頭に置いた施策が望まれており、沖縄県では森林の持続可能な利活用のためのゾーニングや、様々な問題が指摘されている皆伐に代わる伐採方法として、有用な樹木のみを伐採するため森林への負荷が小さい択抜による伐採方法等が模索されております。

最後になりますが、本研究会の発表をとおして情報の提供や活発な議論をしていただき、それらの成果が本県および亜熱帯地域の林業の一助となることを期待するものであります。

平成24年 8月 31日

亜熱帯森林・林業研究会会長　金城　一彦